行動計量学会会報

日本行動計量学会事務局
〒106 東京都港区南麻布 4−6−7
統計数理研究所　村上研究室

止めよう!! 見ぬフリ，知らぬフリ

柳原良造

なぜか，今回の巻頭言が私に廻ってきた．日頃の小言幸兵衛の云い分を活字にとの会報担当理事の温情と解し，少々角ばった一文を提示する．

最近の本学会を眺めていて私の気になって仕方がない点は，会員の当時者意識の無さで，何かにつけ「見ぬフリ,知らぬフリ」がまかり通っているように思われる．

まずは，私の生息する調査の世界では，その環境劣化を案じ，何の抵抗もなし得ない実情に絶望して，「調査は死んだ」と水野欽司先生が嘆じて以来十余年経たが，それ以前にも以後にも，我々は何事もなし得ず今日の実態に至った．社会的，経済的な条件変化が相手であり，困難かつ無為だったかもしれない．しかし，徒らに手を拱き，係わりを避けるフシすらあって，今日となったのは無念である．今では低質の，怪しげな調査法によるデータを扱わざるを得なくなったが，悲しいことに，この種のデータを容認弁護する傾向すらある．解析者もデータの質に目をつぶり，これを正しいものと見なして解析の世界に閉じこもっている姿も多い．それでよい場合もありうるが，錬金術のように，怪しげなデータから大理論をぶち上げる例も見ないではない．それでよいのだろうか．その種のデータから誤った結論を強弁してはいないか．考えれば怖しいことである．とかく利口者は火中の栗を拾わず，見て見ぬフリを身上とするが，その結果は，長いものには巻かれろであり，いいかげんなデータの横行を許すことに繋がっている．調査に対する見ぬフリ知らぬフリは，いずれ我が身にはねかえると認知し，傍観を止めるべきではないか．

第２に解析手法の誤用乱用問題がある．パソコン普及に伴って各種解析手法が広まったことは喜ばしい．しかし，同時に使用がお手軽になった分，誤用乱用もはびこっている．木下冨雄先生の「メーカー・ユーザー論」では，その論点の一つに製造者責任論があった．手法製造者は，その用法，用量，副作用，効果限界を明確にし，正しく使われよう導く責任があるとの論旨である．メーカーとしての云い分はあろうが，誤用乱用の果てに，望ましい解が得られぬダメ手法と烙印される被害を考えれば，手法の誤用乱用を見ぬフリ知らぬフリで通してよいものかどうか考えねばなるまい．

最後に学会運営への関与の薄さをあげておきたい．本学会が学際的であるため，会員の多くは本籍となる学会を持ち，本学会が従であることが多い．そのせいか，学会運営を他人事として傍観するクセがあるように思われる．これでは学会幹部の苦労が空回りしてしまう惧れが強い．まず会員の帰属意識を高めるため，本学会の意義と魅力を明確にする必要があろう．私見では，先進的研究成果や新手法，そして，各種手法の論理と正しい使い方を体得できる場とすることが要と考えている．これが果たされれば，帰属に意義を見，当事者意識に溢れた会員で，見ぬフリ知らぬフリは消滅しよう．

（やなぎはら　りょうぞう，日本行動計量学会運営委員，(株)ﾏｰｹｯﾃｨﾝｸﾞ・ｻｰﾋﾞｽ）

関西大学大会の話題から

日本行動計量学会第23回大会は，9月12日（火）～14日（木）の間，関西大学で開催されました．辻岡美延大会実行委員長をはじめとする関西大学の関係者の皆様のおかげで実り多い大会でした．以下では，関西大学大会での話題からいくつかをピックアップしてご紹介します．

第23回大会の報告

関西大学社会学部　清水和秋

「基礎的理論的研究と応用的研究との交流の場」を大会の基本的コンセプトとして，辻岡美延大会実行委員長のもとで，講演，シンポジウムなどの企画を立てました．会員の皆様のご協力により，幸いにも，多数の発表申込や企画申し出があり，一般の個別発表52件，特別講演・教育講演４題，そして，シンポジウム５セッション（21件），自主シンポジウム３セッション（16件），特別セッション２セッション（12件），以上を合計すると105件の発表・講演となりました．

「日本顔学会」と「日本ファジィ学会関西支部」からのご協力もあり，本大会の参加者数は，267名でありました．また，大会前日にはチュートリアルセミナー「EQS for Windowsによる共分散構造分析入門」にも，78名の参加者がありました．

大会の運営では，私どもはまったくの素人でした．昨年度の開催校の筑波大学から引き継いだ大会運営マニュアルや歴代大会の資料に導かれながら，準備段階から大会当日へとたどり着くことができたようなものです．他の学会大会の準備をしながら，行動計量学会のこの伝統に感謝している次第です．

e-mailでの問い合わせや連絡のログを保管はしていますが，件数のカウントはしておりません．あまりにも数が多いからです．電話などでの問い合わせには，その一方で，ご迷惑をおかけしたかもしれません．この大会の準備に最も貢献してくれたものは，ある意味では，インターネットであったかもしれません．

大会を終わってみて，企画・運営などいたらぬことが多々あったのではないかと反省しながら，皆様のご容赦をお願いする次第です．大会は，会員の皆様のご援助によって，はじめて成功するものであると大会を運営して実感いたしました．次期開催校へ，会員の皆様から積極的にe-mailにてご提案されてはいかがでしょうか．

名誉会員の推挙

学会の総会において，水野欽司氏が名誉会員に推挙されました．おめでとうございます．

学会賞の授与

学会の総会において，日本行動計量学会功績賞が東京大学の松原　望氏に，優秀賞が立教大学の豊田秀樹氏に贈られました．久保武士学会賞選考委員長による受賞者の紹介と選考理由，ならびに各受賞者の受賞の言葉を紹介します．

「学会賞」受賞者のプロフィール

学会賞選考委員長　久保武士

平成7年度日本行動計量学会・功績賞は東京大学教養学部教授の松原　望先生に，また優秀賞は立教大学社会学部助教授の豊田秀樹先生に授与されました．

功績賞の松原　望先生は，1966年に東京大学教養学部基礎科学数学コースをご卒業後，ただちに文部省統計数理研究所に入所され，在職のまま1968年から1972年までStanford 大学に留学されました．同大学のChernoff 教授の薫陶を受けられたことが，のちに先生が Bayesian として大成される

きっかけになったと伺っています．

1977年には筑波大学社会工学系助教授，1986年に東京大学教養学部教授にご就任になり現在に至っておられます．

先生の統計的決定理論に関する御研究につきましては多数の論文の他に，「決定の数理」ー数理科学シリーズー筑摩書房，「意思決定の基礎」ー現代人の統計4ー朝倉書店，「新版　意思決定の基礎」ー朝倉書店などの御著書に結実しています．また，統計学の教育・啓蒙に関しましても，「統計学入門」，「人文社会学の統計学」，「自然科学の統計学」ー東京大学出版会（総編集，分担執筆），あるいはベストセラーともなった「知の技法」ー東京大学出版会ー小林康夫，船曳建夫編（分担執筆）など多数の御業績があります．

行動計量学への貢献だけでなく学会に対しましてもBehaviormetrika誌の編集委員長としてその発展にご尽力されましたし，長年理事として，また会則検討委員会委員長としまして多大な貢献をされました．

優秀賞の豊田秀樹先生は1985年に東京学芸大学教育学部を卒業され1987年には同大学院修士課程を修了し，さらに東京大学大学院教育学研究科博士課程に入学，平成2年には教育学博士の学位を授与されています．

平成元年より文部省大学入試センター研究開発部門助手となり，1995年春より立教大学社会学部産業関係学科助教授に就任されています．

多変量データ解析分野での理論的業績としては，「交差妥当化によるモデル選択」や「母数の簡便推定」に関する立派な研究があり，テスト理論の分野でも多数の研究を発表されています．Behaviormetrika誌，行動計量学会誌に論文を発表されているだけでなく，行動計量学会和文誌編集委員としても活躍しておられ，統計教育にも熱心な新進気鋭の学者であります．

エミグレの精神（功績賞を受賞して）

東京大学教養学部　　松原　望

私はよく憶えております．1972年長いアメリカ留学生活から帰って統計数理研究所へ戻った時，さて次に何をしようか，もう不変測度の統計学への応用というのはいい，何か全く新しい分野へ入って行きたいという精神，つまりは，エミグレの精神でいた折り，統計数理研究所のあの2階の階段の所で，知らない私に声をかけてくれたのが，柳井，岩坪，丸山のお三方でした．当時は，小室直樹氏もいたかも知れません．

ツヴァイクの『人類の星の時間』ではありませんが，私にとってはあの瞬間が人生を決めた星の時間でした．この後私の学問のゆりかごは行動計量学会でした．この学会の特徴は自由です．各界の指導的な先生方が若造の私を相手にしてくださった，その感激はいまも忘れられません．

人生のために学問がある．逆ではない．学問は楽しまなければいけません．それが行動計量学会でした．学問を楽しむ2条件は，(1) つねにエミグレの精神（国外移住者の精神），何にもとらわれない精神を持つ，(2) 瞬間で学者の人生は決まること，IDEAでもPLANでもその瞬間が大切．長く暖めていて良いことはあまりありません．学問に遠慮は不要です．

こういう哲学で来てよかったなと思っております．それを確認させて下さった学会の皆様，賞を有難うございました．

優秀賞を受賞して

立教大学社会学部　豊田秀樹

行動計量学会から，このたび優秀賞を拝することになり，たいへん光栄に，また恐縮に存じます．この栄えある受賞を励みに，今まで以上に研究に教育に邁進する所存であります．

私が行動計量学会の研究発表会に初めて参加したのは，千葉大学での前回の大会で

した．私は大学院生でした．その後，共分散構造モデルとよばれるデータ解析手法に魅せられて，理論と応用の丁度中間のあたりで仕事をしてまいりました．

共分散構造モデルは，もともと従来の多変量解析を理論的に統合する欲求に基づいて一般化された研究の経緯があります．ところが，一般化がある程度達成されると，今度は逆に，当初は一般化しようと考えていなかった領域のモデルが共分散構造モデルで記述できるようになってきました．

古典的なテスト理論や項目反応理論や一般化可能性理論などのテスト理論がサブモデルであることは比較的知られていますが，最近では時系列モデル，行動遺伝学モデル，社会調査法における多段抽出モデル等，各実質科学分野での固有の事情を徹底的に考慮して工夫されたモデルが，共分散構造モデルのサブモデルとして記述されはじめています．共分散構造モデルという単一の視点から各領域の個別の事情がどのように記述されてきたかを眺めることは非常に興味深い課題です．

データ解析の研究には，大別すると個別の領域に依存しないモデルの構築を目指す効率のよい一般的な方向と，個別の実質的科学の知見から工夫を凝らしてモデル構成を行うの手作りの方向とがありますが，共分散構造モデルというトランスポーターを利用すると比較的方向転換が容易です．どっちつかずのコウモリという見方もあるのですが，これからも課題の魅力に引きずられて，自分自身が楽しめることを大切にしていこうと思います．

決算・予算の承認

昨年度の決算および今年度の予算が，それぞれ総会において承認されました．詳しくは同封の資料をご覧ください．来年度から会費が値上げされます．会員の皆様のご協力をお願いいたします．

第24回大会のお知らせ

日本行動計量学会第24回大会のご案内

千葉大学　宮埜壽夫

日本行動計量学会の第24回大会を1996年9月6日(金)から9月9日(月)までの4日間にわたり，幕張メッセで開催することになりました．開催地に近いこともあり，実行の大役を千葉大学がお引き受けしたわけですが，ようやく実行委員会の体制も整い，大会に向けて準備を始めております．

今回の大会は，初めての試みとして，日本統計学会との同時開催という形で行われます．二つの大会を同時に開催するために例年にないご不便をおかけするかと思いますが，同時開催の利点を活かした大会にしたいと思っております．

大会初日はチュートリアル・セミナーにあてられますが，後の3日間は例年通りシンポジウム，特別セッション，一般研究発表に割り当てられます．例年に変わらず，大会に対するご意見を皆様から戴ければ幸いです．

連絡先は下記の通りです．会員の皆様方のご参加を心よりお待ち申し上げます．

連絡先：〒263 千葉市稲毛区弥生町 1-33
千葉大学文学部　宮埜研究室
日本行動計量学会第24回大会事務局
TEL：043-290-2276
FAX：043-290-2278

第24回大会特別セッションのテーマ募集

プログラム委員長　繁桝算男

第23回大会が関西大学の辻岡先生，清水先生等の格別な御努力によって充実した大会として幕を閉じて間もなくの感がありますが，そろそろ次回の大会の企画について会員の皆様に御案内致します．

総会にて決定されましたように，1996年の第24回大会は，千葉大学を主催校とし，

幕張メッセにて統計学会との同時開催となりました．統計学会とは大会の運営についてかなり異なるところがあり，両学会からの準備委員数名の出席により合同で準備委員会が発足し，千葉大学の実行委員会とともに，次年度大会における両学会の調整等に当たっております．

従来，行動計量学会では，大会主催校の責任でプログラムを作っておりましたが，統計学会ではプログラムの編成は，統計学会の理事会の委嘱を受けたプログラム委員会の責任で行われていました．次回大会の同時開催という特殊事情と，千葉大学実行委員会の多大な負担とを考慮し，行動計量学会でも，次回大会のプログラム編成は統計学会のように理事会に付属するプログラム委員会の任務とすることが行動計量学会理事会にて決定されました．その結果，行動計量学会のプログラム委員会が発足し，千葉大学実行委員会と協力し，プログラム編成を担当することになりました．

同時開催に関しましてはいろいろな意見をお持ちのことと存じますが，行動計量学会の理念や目標は統計学会とは元来異なるところがあるはずで，各実質科学で育まれてきた手づくりともいうべき興味深い方法の発展や，方法論に限らず多彩なテーマの研究の御発表を期待しております．

今回は，このような行動計量学らしい特定のテーマの下に特別セッションを多く企画したいと思います．５件以上の研究発表を予想できるような特定テーマを持つ特別セッションの企画を是非下記までお寄せ下さい．

企画の参考にさせていただきます．また，特別セッションに限らず一般セッションの発表等，来年の大会での御発表を是非お早めに計画していただきたくお願い致します．

〒226 横浜市緑区長津田 4259
東京工業大学大学院総合理工学研究科
システム科学専攻　繁桝算男
TEL：045-924-5654
FAX：045-924-5684
e-mail：kshige@sys.titech.ac.jp

会員便り

近　況

日本ロシュ臨床統計解析部長　高橋行雄

先日，箱根の小涌園ホテルで行われた日本科学技術連盟主催の第６回 BioS セミナーの合宿に指導講師として参加してきました．参加者は約90名，ほとんどが製薬会社の臨床統計部門に所属する人たちです．製薬企業にとって臨床試験は，製品開発に不可欠でありますが，これまでは黒子的な役割に甘んじていました．しかし，国際化の波により開国が強く求められ，日本を含む臨床試験のための３極共通の基本ガイドラインの改定案がすでに公表され，この中で臨床研究の全過程に専門家の一員としての生物統計学者の活用が製薬企業の責任として明確にされています．

今後，さらに生物統計の社会的責任が問われることになると思われます．今後とも，日本行動計量学会員の皆様の支援をお願いします．

最近の研究状況

福岡大学体育学部　青柳　領

以前は専ら体力測定値をもとに因子分析法，重回帰分析，判別分析，クラスター分析といった多変量解析を用いて，幼児期の運動能力や柔道選手の体力を扱っていた．最近はスポーツのゲーム内容を分析することが多く，連続量として扱えないデータを扱う関係上，双対尺度法，多次元尺度法，数量化理論を用いている．同時にスポーツの作戦のパターンを情報量によって数量化する試みもしている．また，競技会の記録整理や抽選の電算化のためパソコンを用いてC言語によるシステム作成も試みている．

近　況

岡山商科大学商学部　佐井至道

10年余り，サンプリング法，特に層化抽出法に関する研究に取り組んでいます．層化抽出法は実際の調査においてしばしば用いられるサンプリング法ですが，抽出されたデータの解析法については，母平均推定の問題以外これまではほとんど議論されていません．

現在，層化抽出法に基づく母平均の信頼区間の構成法について研究中ですが，学会などに参加して残念に思うのは，リサンプリング法の領域を除き，この分野の問題に取り組んでいる若手研究者の少ないことです．数十年前の華やかさの復活までは期待しませんが，サンプリング法の問題について同年代の研究者と議論できる日が来ることを願っています．

近　況

大阪府立大学総合科学部　桐村雅彦

入会時は何度か学会にも出席していましたが，今は単なる所属しているだけにすぎません．専門は心理学で，記憶や認知を研究領域にし，特に記憶（知識）の体制化を扱っています．

会員諸兄の多くの著作物を参考に，二十数年前から今日に至っても，体制化構造の図式的表現（当初のクラスター構造から最近のパス・ファインダーを取り入れたピン形式の３次元空間表現などまで）に心を砕いています．でも結局は，元になる実験計画や結果をどのように理論的に説明するかですので，余り図式的表現だけに片寄っているわけにはいかないと思う今日この頃です．

なお１執筆者として参加した「認知心理学２記憶」（東大出版会）が出版されました．もしよければご一読ください．

平成7年度第2回理事会議事録（抜粋）

・日　時：平成7年7月17日（月）午後6時～8時

・場　所：大学入試センター

・出席者：池田，岩崎，岩坪，江川，岡太，久保，駒澤，後藤，繁桝，清水，高木，田栗，馬場，村上（征），柳井，吉野，

１．平成6年度決算案及び平成7年度予算案

・平成6年度決算案及び平成7年度予算案が承認された．

２．第23回大会

・報告件数および会場についても説明があり，各種委員会の開催スケジュール，総会次第（案）を検討した．

３．第24回大会

・統計学会との同時開催についての報告があった．

４．学会賞

・久保委員長より，功績賞は松原　望会員，優秀賞は豊田秀樹会員を推薦したい旨の提案があり承認された．

５．名誉会員の推薦

・岩坪委員長より水野欽司会員を推薦したい旨の提案があり承認された．なお，名誉会員の推薦規準については来年度までに案を出すこととなった．

６．統計関連学会の共通名簿

・吉野理事より統計関連学会の共通名簿について，関連学会の検討委員会の報告があった．

7．各種委員会報告

・和文誌編集委員会，欧文誌編集委員会，運営委員会の報告があった．

8．その他

・いくつかの学会の協賛を承認した．

日本学術会議関係報告

日本学術会議会員（第４部）藤井光昭

1．総会，部会，常置委員会等

第16期第4回総会，部会，常置委員会等は1995年10月24日（火）～29日（金）において開催された．総会では，いくつかの専門の統合，研連の改廃の承認，複数の研連にまたがる専門委員会を設置できるようにしたこと，会員推薦管理会が学術登録団体の審査の際必要に応じて日本学術会議の意見を聞けるように改正，将来計画委員会の設置の承認がなされた．

また「高度研究体制の早期確立について」という政府等への要望書が可決された．これは研究費の増額，研究者の条件整備，研究機構に安定性と流動性の導入や支援体制の充実，国際的連携をもりこんだものである．また「脳の科学とこころの問題」に関する特別委員会報告が3回にわたる議論のすえ承認された．

第4部会では，総会議案の事前審議の他，計算機科学国際連合設立を支援することにしたこと，旧ソ連圏科学者との共同研究推進（研究援助）要望の支持等を決定した．

統計学選出の日本学術会議会員が属する第5部常置委員会（学術情報，資料等）では，出版物の再版制度廃止についての意見を求められ，関係者に説明してもらったりして勉強を行っていることと，図書館等に所蔵の本の紙質の劣化の問題に対する要望書案づくりや，学術情報ネットワークのヒヤリング等を行っている．

2．統計学研究連絡委員会

第16期第4回を6月26日に，第5回を10月16日に開催．

(1)［統計学の研究・教育体制の整備について］高等学校およびそれ以前の教育に関する次期カリキュラムの改訂に向けて，科学教育研究連絡委員会の活動に参加する形で，統計に関する教育の提言を検討した．各教科の指導要領や教科書等を委員が手わけして調査した．統計に関する基礎的な見方や考え方を実際のデータが扱われたところで自然な形で教育するのがよいのではないか等の意見が出された．

(2)［統計関連学会の共同事業について］共通名簿作成の可能性の検討ということで，各学会の担当者の懇談会が，5月16日，7月18日，9月19日，10月12日に開催され，その状況が藤井より報告された．共通名簿については業者と連絡をとりながら実現可能性を具体的に検討していること，関連してインターネットによる統計 関係のニュースの速報等を試みる具体案の検討（各学会のニュースレター等はそのままにして，追加的サービスとして）が行われること，事務局の設置方法の検討も具体的問題に対応して行おうとしていること等が報告された．

(3)［科学研究費審査員候補者の推薦］，その他．

本年度は日本学術会議関係予算の節減の影響で，本委員会はすでに3回行ったためこれ以上は開催できなくなり，次回は次年度に行うこととした．

学術講演会のお知らせ

日本学術会議統計学研究連絡委員会の活動の一つとして，ISI の統計教育委員会の元委員長の David Vere-Jones 教授による統計教育に関する講演会が下記の要領で開

催されます．ぜひご出席ください．

日　時：　平成8年1月26日(金)
　　午後2時～4時

場　所：　日本学術会議

講演題目：統計学の教育体制について
　　ー国際的展望ー

講演者：　David Vere-Jones 教授
　　(Wellington Victoria 大学教授，
　　東京工業大学客員教授)

学会からのお知らせ

「Behaviormetrika」，「行動計量学」および学会発表論文抄録集，シンポジウム抄録集バックナンバーの販売

日本行動計量学会では，在庫のある下記の学会誌，抄録集を1部1,000円で販売致します．購入御希望の方は，購入御希望の学会誌，抄録集名と購入冊数を御記入の上，郵便，FAX，あるいは e-mail で事務局まで御連絡下さい．なお販売するバックナンバーは次の通りです．

全巻揃いセット

・欧文誌　Behaviormetrika
　No. 1～No. 37 (Vol. 22, No. 1)
　限定5セット　80,000円
・和文誌　行動計量学
　No. 1～No. 41 (Vol. 21, No. 2)
　限定15セット　80,000円

個別売り

・欧文誌　No. 1～No. 37 (Vol. 22, No. 1)
　1冊　1,000円
　(ただしNo.3,No.9,No.22欠)
・和文誌　No. 1～No. 37 (Vol. 22, No. 1)
　1冊　1,000円
　(ただしVol.4 No.2欠)
・大会抄録集
　第6回，第7回，第10回，第11回，
　第12回，第16回，第18回大会抄録集
　各500円
・会員名簿(会員名簿は学会員に限ります)
　1,000円

申込先

〒106　東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所内
日本行動計量学会事務局
　村上　征勝
TEL：03-5421-8766
FAX：03-3446-1695
e-mail：murakami@.ism.ac.jp

第60回行動計量シンポジウムのお知らせ

テーマ：スポーツの行動計量
日　時：1996年1月27日(土) 13:00～17:00
場　所：早稲田大学小野梓記念講堂
　(西早稲田構内)
　〒169-50　新宿区西早稲田 1 - 6 - 1
照会先：前田忠彦（統計数理研究所）
　〒106　港区南麻布 4 - 6 - 7
　TEL：03-5421-8734
　FAX：03-5421-8796
　e-mail：maeda@ism.ac.jp
詳細は別紙参照

関連学会カレンダー

1995年12月22日（金）

日本分類学会第12回研究報告会

会　場：統計数理研究所

連絡先：日本分類学会事務局
　〒106　港区南麻布 4-6-7
　統計数理研究所気付
　TEL：03-3446-1501(代表)
　FAX：03-3446-1695

1996年3月27日（火）～30日（金）

第5回国際分類学会議（IFCS-96）

テーマ：データの科学，分類，関連手法
Data Science, Classification and Related Methods

内　容：招待講演，一般講演，パネルディスカッション，ポスターセッション，コンピュータデモンストレーション

会　場：神戸国際会議場（神戸市）

連絡先：日本分類学会　馬場康維
〒106 港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所内
TEL：03-3446-1501(代表)
03-5421-8739(直通)
FAX：03-3446-1695
e-mail：IFCS96@ism.ac.jp

最新情報：URL：
http://www.media.cst.nihon-u.ac.jp/IFCS96/

公募案内

東京大学海洋研究所

採用人員：資源解析部門　助教授　1名

提出書類：
1．履歴書
2．研究業績目録（原著論文，総説，その他）
3．主要論文5篇の別刷（またはコピー）各1部
4．これまでの研究の概要と今後の研究に対する抱負（1200字程度）
5．推薦書1通または応募者について参考意見を述べることのできる人の氏名および連絡先（2名）

応募期限：平成8年1月31日（水）必着

提出書類送付先（簡易書留で送付）：
〒164 東京都中野区南台 1-15-1
東京大学海洋研究所
所長　平野　哲也
問合せ先：TEL：03-5351-6493（松宮）

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています．詳しくは

〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター　C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

までお問い合わせください．

統計数理研究所

採用人員：文部教官　教授1名

提出書類：
1．履歴書，
2．研究業績リスト，
3．研究計画書，
4．推薦書

応募期限　平成7年12月28日（木）

提出先及び問合せ先
〒106 東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所
管理部庶務課人事係
TEL：03-5421-8707

会報編集者から

次号会報は，幕張メッセ大会の第1号通信と共に，来年の2月中旬頃にお送りする予定です．会員の皆様の積極的なご投稿をお待ち申し上げております．下記までお送り下さい．

〒180 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
成蹊大学工学部経営工学科
岩崎　学
TEL：0422-37-3764
FAX：0422-37-3871
e-mail：iwasaki@is.seikei.ac.jp

（会報作成担当：岩崎　学・前田忠彦）

平成６年度会計決算報告

収入	予算	決算	増減	備考
前年度繰越金	5,348,202 円	5,348,202 円	0 円	
学術定期刊行物補助金	〃 910,000	910,000	0	
６年度学会費	6,400,000	5,764,900	△ 635,100	
学会誌売上金	280,000	265,794	△ 14,206	
預金利子	24,000	3,144	△ 20,856	
雑収入	0	0	0	
学会賞基金からの副賞	150,000	150,000	0	
計	13,112,202 円	12,442,040 円	△ 670,162 円	

日本行動計量学会

自　平成６年４月　１日

至　平成７年３月３１日

支出	予算	決算	増減	備考
学会誌制作費	7,900,000 円	4,408,605 円	3,491,395 円	(注1) 平成５年度未発行分
和文誌２０巻２号	1,000,000	839,450 (注1)	160,550	
〃　２１巻１号	1,000,000	1,205,100 (注1)	△ 205,100	(注2) 欧文誌編集委員会　100,000円
〃　２１巻２号	1,000,000	0	1,000,000	和文誌編集委員会　140,485円
〃　２２巻１号	1,000,000	0	1,000,000	運営委員会　100,000円
欧文誌 Vol. 21, No. 1	1,300,000	1,320,923 (注1)	△ 20,923	会則委員会　50,000円
〃　Vol. 21, No. 2	1,300,000	1,043,132	256,868	
〃　Vol. 22, No. 1	1,300,000	0	1,300,000	(注3) 消費税
シンポジウム費用	100,000	116,470	△ 16,470	
各種委員会活動費	350,000	390,485 (注2)	△ 40,485	(注4) 事務局アルバイト
小グループ研究会費	200,000	50,000	150,000	
学会事務委託費	1,810,000	1,624,876	185,124	(注5) 名簿印刷費954,537円を含む
管理費	140,000	140,000	0	
新入会員・移動処理	70,000	87,200	△ 17,200	(注6) 名簿郵送費224,160円を含む
発送手数料	1,400,000	1,350,350	49,650	
その他	200,000	47,326 (注3)	152,674	(注7) 平成５年度大会開催費補助
人件費	20,000	6,400 (注4)	13,600	
印刷費	950,000	1,128,897 (注5)	△ 178,897	
通信費	1,500,000	1,409,447 (注6)	90,553	
消耗品費	10,000	5,509	4,491	
会合費	50,000	80,100	△ 30,100	
雑費	10,000	3,554	6,446	
学会誌保管料	0	217,570	△ 217,570	
予備費	62,202	200,000 (注7)	△ 137,798	
学会賞副賞	150,000	150,000	0	
次年度繰越金	0	2,650,127	△ 2,650,127	
計	13,112,202 円	12,442,040 円	△ 670,162 円	

結果、事実のとおり

相違のないことを証します。

監事　宮原　守男

監事　丘本　正

平成７年度予算

収入	平成７年度予算	平成６年度実績	備考
前年度繰越金	2,650,127 円	5,348,202 円	
学術定期刊行物補助金	880,000	910,000	
６年度学会費	6,000,000	5,764,900	
学会誌売上金	350,000	265,794	
預金利子	3,000	3,144	
雑収入	150,000	0	
学会賞基金からの副賞	150,000	150,000	
計	10,183,127 円	12,442,040 円	

日本行動計量学会

自　平成７年４月　１日

至　平成８年３月３１日

支出	平成７年度予算	平成６年度決算	備考
学会誌制作費	6,396,745 円	4,408,605 円	(注1)　平成６年度未発行分
和文誌２１巻２号	794,130 (注1)	839,450 (注2)	(注2)　２０巻２号
〃　２２巻１号	900,000 (注1)	1,205,100 (注3)	(注3)　２１巻１号
〃　２２巻２号	900,000	0	(注4)　Vol. 21 , No. 1
欧文誌 Vol. 22, No. 1	1,502,615 (注1)	1,320,923 (注4)	(注5)　Vol. 21 , No. 2
〃　Vol. 22, No. 2	1,150,000	1,043,132 (注5)	
〃　Vol. 23, No. 1	1,150,000	0	
シンポジウム費用	90,000	116,470	
各種委員会活動費	300,000	390,485	
小グループ研究会費	200,000	50,000	
学会事務委託費	1,630,000	1,624,876	
管理費	140,000	140,000	
新入会員・移動処理	90,000	87,200	
発送手数料	1,350,000	1,350,350	
その他	50,000	47,326	
人件費	0	6,400	
印刷費	200,000	1,128,897	
通信費	1,000,000	1,409,447	
消耗品費	5,000	5,509	
会合費	50,000	80,100	
雑費	11,382	3,554	
学会誌保管料	150,000	217,570	
予備費	0	200,000	
学会賞副賞	150,000	150,000	
次年度繰越金	0	2,650,127	
計	10,183,127 円	12,442,040 円	